

— 今こそ、社協が腕を振るうとき —

社協“見える化”の手立てはこれだ！

平成22年3月

平成21年度「社協組織・事業強化分科会」報告

[福井県内市町社会福祉協議会・福井県社会福祉協議会]



Contents

Introduction	はじめに	この分科会(研究協議)のねらいとしたところ	1
Proposal	分科会提言	社協の「見える化」をすすめる戦略 ~その課題と方策~	2
Chapter 1	(1章)	社協の「見える化」を阻んでいる問題状況	5
Chapter 2	(2章)	社協の「見える化」に向けた戦略課題のイメージづくり	7
Chapter 3	(3章)	社協の「見える化」に向けた議論の到達点	11
Chapter 4	(4章)	社協の「強み(弱み)」の再検証	13
Chapter 5	(5章)	社協の「見える化」をすすめる戦略課題の設定(再編)	17
Chapter 6	(6章)	協議を通じて見えたこと ~分科会メンバーの振り返りコメント~	21
Data 1	(資料1)	協議のあしあと	25
Data 2	(資料2)	開催要綱、分科会メンバー	26

Introduction はじめに

－ この分科会(研究協議)がねらいとしたところ －

社協は、従来から市区町村、都道府県(指定都市)、全国を網羅する『広域ネットワーク』を強みの一つとして、事業や組織経営を推進してきています。

一方、県内の市町社協には、平成 21 年 4 月 1 日現在で 1,980 名(非正規を含む)、1 社協あたりでは約 120 名もの職員が勤務するなど、組織の規模が大きくなっています。

しかし、介護保険制度の導入以降は、経営事業の拡大を背景に、事業や職員の雇用形態の多様化・複雑化、財源構成の変化が急激に進み、人材育成や労務管理などの課題が社協ごとに個別化しています。言い換えれば、広域ネットワークの強みを活かした経営手法の標準化が思うように進んでいないということです。

そして、このことが、“社協(しゃきょう)”という共通の名のもとで共有されてきた組織運営や実践の姿を見えづらくしている要因の一つになっています。

ただし、社協には、法の規定や公益性によって、多くの住民から信頼と評価を得てきたという歴史的な事実もあります。

“市町”という暮らしの土台となる生活圏域に存在する社協だからこそ、地域に暮らす住民の満足や信頼を引き出していくような取り組みが必要であり、こうした取り組みを県内社協が一体的に展開していくような仕掛けが必要になっています。

こうした課題の認識に基づいて、平成 21 年度は、『社協の「見える化」』に向けた方策について研究をすすめることにしました。

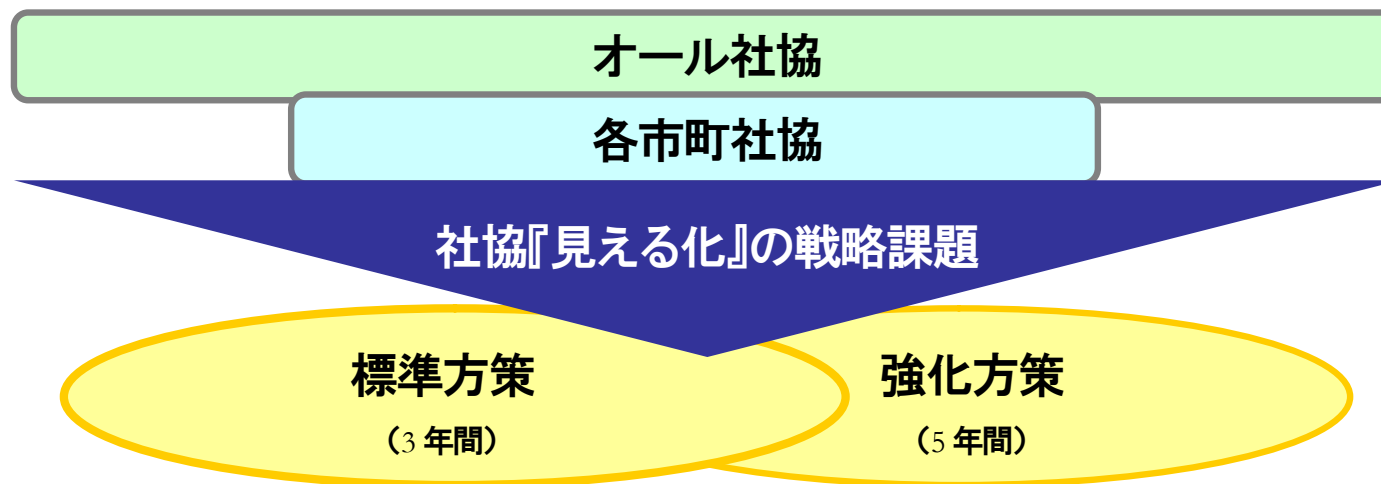
Proposal 分科会提言

－ 社協の「見える化」をすすめる戦略 ～その課題と方策～ －

分科会は、『社協の見える化』を実現するため、平成22年度から平成26年度を推進期間とする「**戦略的な課題**」とこれらの課題を解決(実行)していくための活動や実践の「**展開方策**」を提言します。

この提言は、【**県内オール社協での一体的なアクション**】と、【**市町社協ごとの特性を活かした地域ベースのアクション**】を総合的かつ重層的に展開していくことを前提に組み立てています。

したがって、この提言自体には、分科会報告書としての性格以上に、県内社協の合意と納得のもとで、具体的なアクションをカタチにしていく際の指針としての性格づけも行うとともに、進捗や実効性を点検(検証)することも想定しています。



◇ 社協の『見える化』に向けた【戦略課題と取組み方策】 ◇

1. オール社協(広域・協同)による展開方策

	『見える化』の戦略課題	標準方策 [3年目途] (必ず達成すべきこと)	強化方策 [5年目途] (さらに強化したいこと)	3～5年後の実施状況を 確認する指標(例示)
I	住民と“地域の福祉活動”の価値や目標を分かち合う場をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ①身近な地域で福祉活動を引っ張っていくネットワーク型組織をつくる ②福祉委員などの地域人材とまちづくり活動で協働・協同する戦略をつくる ③社協の役職員が価値や目標を共有できる仕組みをつくる 	④住民の参加と共感を実現する運動(キャンペーン等の広報戦略)をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ①ネットワーク組織数/エリアのカバー率、 ②人材活用戦略の有無、④広報戦略の有無/地域福祉活動の認知度/運動(事業化)の有無/運動の参加者数/運動の準備・実施時間/運動の認知度
II	“地域の福祉活動”の成果を検証できる仕組みをつくる	<ul style="list-style-type: none"> ①検証材料を記録する標準的な方法や様式をつくる ②検証に活用できる標準的な指標(物差し)をつくる 	③地域の福祉活動をアセスメントできる標準的な様式をつくる	①記録ガイドの有無、②検証指標の有無、③アセスメント票の有無
III	住民と協働できる“福祉活動ワーカー”を計画的に育てる	<ul style="list-style-type: none"> ①社協ワーカーを養成する生涯研修の枠組みをつくる ②住民コミュニティワーカー(仮称)を開拓・養成する研修の枠組みをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ③社協ワーカーの専門認証制度をつくる ④コミュニティワーカー(社協ワーカー、住民コミュニティワーカー)の認定制度をつくる 	①生涯研修体系の有無、②住民ワーカー養成カリキュラムの有無、③社協ワーカー専門認証制度の有無、④コミュニティワーカー認定制度の有無
IV	社協の組織・事業に関する目標設定と進行管理の仕組みをつくる	①社協発展強化計画の標準的な策定方法や手順のガイドをつくる	②組織や事業に関する進行管理をすすめる標準的なガイドをつくる	①計画策定指針の有無、②目標管理システム(モデル提案)の有無

2. 市町社協(市町別・個別)ごとの展開方策

	『見える化』の戦略課題	標準方策 [3年目途] (必ず達成すべきこと)	強化方策 [5年目途] (さらに強化したいこと)	3～5年後の実施状況を 確認する指標(例示)
I	住民と“地域の福祉活動”の価値や目標を分かち合う場をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ①住民と直接顔を合わせて、思いや声を聴く場をつくる ②日常の定型業務の中で住民が抱える生活問題やニーズを拾う ③住民の思いや声、生活課題を地域ぐるみで把握・共有する機会をつくる ④市町を単位にした「地域ぐるみの福祉活動計画」をつくる 	⑥身近な地域を単位にした「住民の福祉活動計画」をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ①座談会開催数／座談会参加者数、②拾ったニーズ等の数／ニーズ対応策の数、③キックオフ機会数／キックオフ参加者数、④調査実施・報告の有無／調査後のアクション／計画策定参加者数／計画策定時間数、⑤計画策定地域数／計画策定参加者数／計画策定時間数
II	“地域の福祉活動”の成果を検証できる仕組みをつくる	①地域福祉活動の過程や成果を記録化するルールをつくる	<ul style="list-style-type: none"> ②地域福祉活動をアセスメントする方法とルールをつくる ③地域福祉活動の成果・課題を経年でチェックする仕組みをつくる ④住民が地域福祉活動を評価できる仕組みをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ①記録様式・記録システムの有無、②アセスメント票の有無／アセスメント後のアクション、③経年検証システムの有無、④政策提言等の数／政策立案等の数／住民評価制度の有無／評価への参加住民数
III	住民と協働できる“福祉活動ワーカー”を計画的に育てる	<ul style="list-style-type: none"> ①体系化した職場(OJT、Off-JT)研修を運用するルールをつくる ②地域の人材(既に活動中の人、実践力のある人、新たにつながる人等)とまちづくりで協働・協同していく方策をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ③すべての社協ワーカー(職員)が地域と関われる仕組みをつくる ④住民コミュニティワーカー(仮称)が地域で主体的に活動できる方法や手順をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ①職場研修ルールの有無、②住民ワーカーの活用方針の有無、③地域担当ワーカー数／活動時間、④住民ワーカー数／活動時間
IV	社協の組織・事業に関する目標設定と進行管理の仕組みをつくる	<ul style="list-style-type: none"> ①社協の組織と事業に関する経営ビジョン(発展強化計画)をつくる ②役員・職員が組織と事業の経営状況を点検する仕組みをつくる 	③住民が社協の組織や事業を評価(点検)できる仕組みをつくる	<ul style="list-style-type: none"> ①発展強化計画の有無、②内部点検システムの有無、③外部点検システムの有無

Chapter 1 社協の「見える化」を阻んでいる問題状況

社協の「見える化」を検討するにあたって、まず、それぞれの社協(分科会メンバー)が、普段「できていない・達成できていない」と感じる、「その改善や解決に向けて取り組んでいること」の把握からスタートしました。

その結果、2つの枠組み(①社会福祉協議会の役職員が見えていないこと、②社協が住民や関係者に見せていないこと)によって、以下のような問題状況が集約されています。

1. 社協の役職員自身が見えていないこと ~社協内部に存在する問題状況~

【知識や情報】で見えていないこと	【目的や目標、価値の共有】で見えていないこと	【手法やスキル】で見えていないこと
<input type="checkbox"/> 社会情勢 <input type="checkbox"/> 地域(社会)の姿や動向 <input type="checkbox"/> 地域の強みやポテンシャル <input type="checkbox"/> 制度、施策、基準等の内容 <input type="checkbox"/> 目的や目標、ビジョンを掲げる意味 <input type="checkbox"/> 社協組織のあるべき姿と現状とのズレ <input type="checkbox"/> 事業や業務のあるべき姿と現状とのズレ <input type="checkbox"/> 求められる職員の姿と現状とのズレ <input type="checkbox"/> 社協の強みと弱み <input type="checkbox"/> 住民の具体的な生活ニーズや問題状況 <input type="checkbox"/> コミュニケーションの意味 <input type="checkbox"/> 費用対効果(コスト管理)の読み解き方	<input type="checkbox"/> 地域福祉の意義や目的 <input type="checkbox"/> 地域への愛着(風土、文化の許容)の度合い <input type="checkbox"/> 社協組織の存在意義や目的、使命 <input type="checkbox"/> 社協職員(組織人)としての価値(使命・責務) <input type="checkbox"/> 社協が支援する活動の意義や目的 <input type="checkbox"/> 社協が提供するサービスの意義や目的 <input type="checkbox"/> モノや金銭等の経営資源の価値 <input type="checkbox"/> 社協組織や職員にとってのリスクの意義	<input type="checkbox"/> 目的に向かう目標やビジョンのつくり方 <input type="checkbox"/> 外部環境に対する戦略・戦術の立て方 <input type="checkbox"/> 社協の強みの活かし方 <input type="checkbox"/> 住民の生活ニーズや問題状況の把握方法 <input type="checkbox"/> 地域の姿の把握方法 <input type="checkbox"/> 住民が抱える生活課題の解決方法 <input type="checkbox"/> 地域に共通する課題の解決方法 <input type="checkbox"/> 社協のアピールの仕方 <input type="checkbox"/> 住民の動機づけを高める仕掛け方 <input type="checkbox"/> 住民や関係者とのつながり方 <input type="checkbox"/> 求められる社協組織のつくり方 <input type="checkbox"/> 求められる社協職員の育て方

2. 社協が住民や関係者に見せて(伝えて)いないこと ~外部に対する社協の働きかけに関する問題状況~

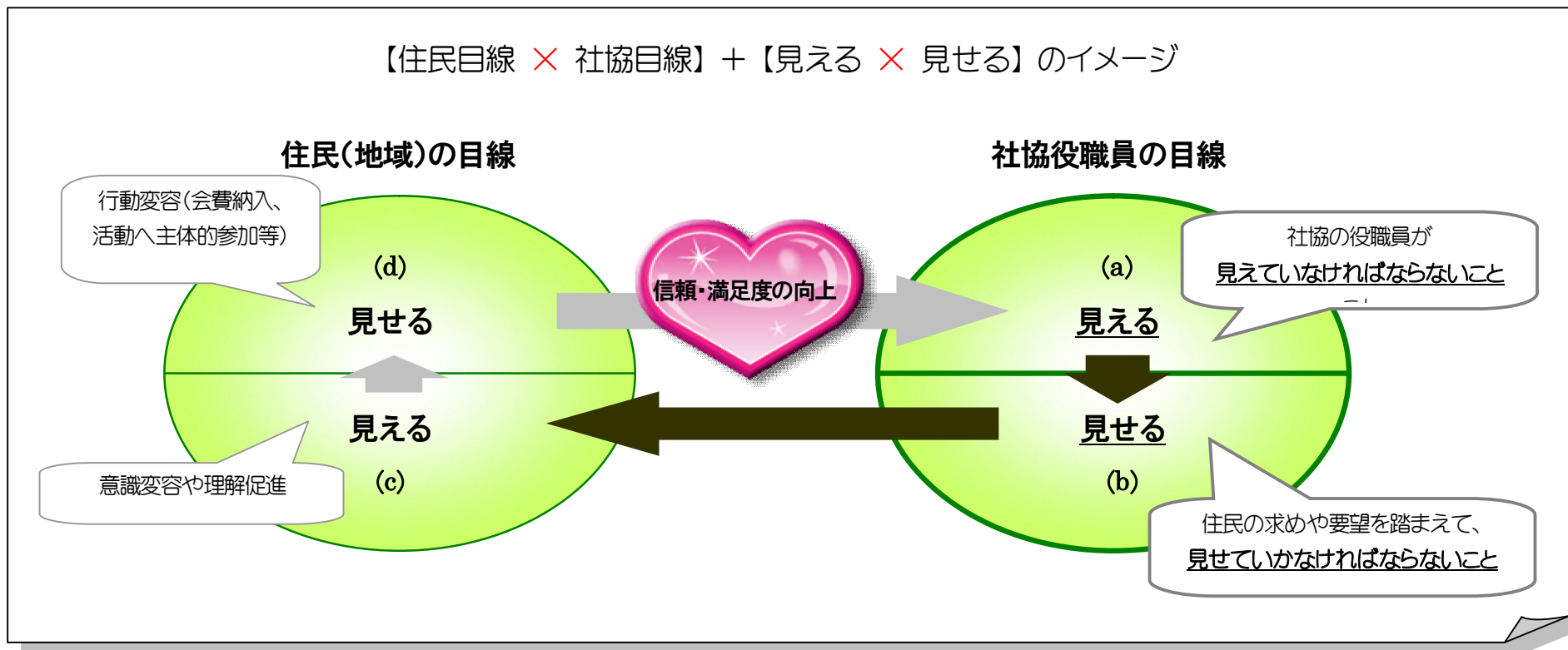
【住民や地域の気づき】に関して見せて(伝えて)いないこと	【社協がもっているノウハウ】に関して見せて(伝えて)いないこと
<input type="checkbox"/> 地域福祉の主人公が「住民」であること <input type="checkbox"/> 住民(地域)だからできることがあること <input type="checkbox"/> 住民参加で地域福祉(活動)をすすめる目的 <input type="checkbox"/> 住民がつながることで生まれる成果 <input type="checkbox"/> 地域の持ち味、良さ(ポテンシャル) <input type="checkbox"/> 地域で起こっている(抱えている)生活課題 <input type="checkbox"/> 生活課題の解決に必要な資源(ヒト・モノ・カネ・トキ・シラセ)	<input type="checkbox"/> 社協の存在意義や目的 <input type="checkbox"/> 社協が取り組む事業・活動についての情報 <input type="checkbox"/> 社協が取り組む事業・活動の有効性 <input type="checkbox"/> 地域の人材(財・在)など、地域資源に関する情報 <input type="checkbox"/> 地域の人材(財・在)など、地域資源を活用することの有効性 <input type="checkbox"/> 住民が参加できる場・機会に関する情報 <input type="checkbox"/> 住民が参加できる場・機会のつくり方 <input type="checkbox"/> まちづくりに向けた共通目標やビジョンのつくり方

- ▼ 「1.社協の役職員自身が見えていないこと」(4 頁)では、福祉に限らず、地域や社会に関する幅広い知識や情報のほか、社協内での目標や価値の共有、住民や地域への働きかけに関わる技術やノウハウなどについての問題が浮かび上がってきています。
- ▼ 「2.社協が住民や関係者に見せきれていないこと」(5 頁)では、地域福祉(活動)の主人公である住民の主体性を引き出したり、こうした地域の人材による地域福祉活動の進め方などに関する問題が指摘されています。
- ▼ いずれの問題状況も社協ごとに解決への取組み視点や手法に幅があり、必ずしも『オール社協』で共有できる戦略(計画的・体系的)を描くまでには至っていないことがわかりました。

Chapter 2 社協の「見える化」に向けた戦略課題のイメージづくり

前頁の問題状況を踏まえると、社協の「見える化」の議論を『誰の目線』ですすめていくのがポイントになります。

そこで、社協は、住民会員制度をもつ【住民組織】の顔と、地域福祉を推進する【専門組織】の顔をもっているため、「見える化」を議論する領域をイメージしました。



1. 分科会協議の基本スタンス

前頁の(a)」の領域では、社協の役職員が社協存立の意義や使命や目標達成に向けた手立てなどに関する問題点を、社協の内部で、どれだけ『見えているのか(理解しているのか)』という点がポイントになります。

一方、「(b)」の領域は、(a)を踏まえつつ、どんな住民の、どんなニーズ・価値観に対して、何を、どうやって『見せていくのか(提供していくのか)』という点がポイントになります。

そこで、分科会では、社協役職員の目線を基本にして、社協を取り巻く環境や資源(ヒト・モノ・カネ・キ・シラセ)を活かして、どんな【見える(見せる)化】を図っていくかに焦点を絞ることにしました。

2. 問題状況を踏まえた SWOT 分析(戦略課題のイメージづくり)

分科会では、各社協から事前に集約した問題状況(4~5 頁)を踏まえつつ、社協を取り巻く社会環境の変化に対応した「見える化」を探るため、社協にとって都合が良い社会環境の変化を【機会】、都合の悪い変化を【脅威】、さらに、社協が得意とする部分を【強み】、不得意とする部分を【弱み】として整理していく『SWOT(スウォット)分析』の手法を活用しました。

この手法は、強み(Strength)、弱み(Weakness)、機会(Opportunity)、脅威(Threat)と思われる事गरら、マトリクス(表)にリストアップし、それぞれが交差する場所ごとに、戦略的な課題を設定していくものです。

- ① **積極的な攻勢戦略** … 社協の**強み**を活かしてどのような**事業機会**を取り組むのか。
- ② **段階的な施策戦略** … 社協の**弱み**によって**機会**をつかみ損ねないために何をすべきか。
- ③ **差別化の戦略** … 社協の**強み**によって**脅威**をどうやって回避していくのか。
- ④ **専守防衛(撤退)戦略** … 社協の**弱み**に対して、**脅威**はどのような影響を与えるのか(それを防ぐにはどうしたら良いのか)。

第1回分科会で集約したSWOT分析の結果(マトリクス)

(平成21年6月30日時点)

注) 表中の「A,B,C」は作業グループをさす。		内部環境		
		強み	弱み	
スローガン	A	絆 DE ふくしのまちづくり	<p>☆人のつながり、ネットワークを持っている。/☆信頼性が高い。/☆専門性が高い。</p> <p>★広報活動が弱い。/★職員間の問題の共有化が薄い。/★行政依存型の財政構造である。</p>	
	B	地域へGO!	<p>☆行政、関係機関・団体、地域住民との連携。/☆公共性かつ柔軟性。/☆福祉の専門性。</p> <p>★財源(行政依存)。/★マンパワーの不足。/★経営管理能力の不足。</p>	
	C	社協が見える(た)! 住民が見える(た)! つながりで起こせアクション	<p>☆有資格者など専門性の高い職員が多い。/☆さまざまな分野で活躍するボランティアをつかんでいる。/☆住民のニーズ解決にあたってきた実績と信頼がある。/☆他の団体等にはない社協ならではのネットワークがある。/☆住民活動を自主性と継続性のある組織化につなげてきた実績があり、情報も入りやすい。</p> <p>★住民のニーズを満たす独自サービスや事業が少ない。/★専門職がいるものの(兼務などで)職員不足もあり、十分にニーズに応える事業展開ができていない。/★PR力が弱く、住民のリアクションが少ない。/★財政面で行政依存度が高く、独自事業展開の基盤が弱い。</p>	
外部環境	機会	A	<p>◇住民同士の協働の気運が高まっている。/◇安全・安心(環境)に対する関心が高くなっている。</p> <p>□社協のコーディネート力を持つてれば、地域の支え合い・見守り活動を充実させることができる。(安全・安心なまちをキーワードに、住民の関心が高まっている部分の事業を企画・展開していく。)</p>	<p>□ビジョン(財政計画を含む)の作成が急務。(具体的なビジョンを作成し、全職員が理解しそれに向かって進んでいくことが必要。)</p>
		B	<p>◇福祉ニーズの多様化(増加)。高齢者・障害者・児童・外国人など。/◇社会福祉法改正。/◇地域重視志向。</p> <p>□住民と共に小地域福祉活動計画を策定し、計画に基づいた事業を実施する。</p>	<p>□ニーズの多様化に対応するために、経営管理能力を有する人材の確保が急務。</p>
		C	<p>◇社会的に福祉への関心や理解が高まり、住民活動の方向が福祉に向いてきた。/◇住民意識の介護分野への注目により、介護サービスでの発展。</p> <p>□行政や医療機関等とのつながりと、ボランティア活動者とのつながりを活かした、地域全体での支援システムの確立(に向けての仕かけ役としての専門性の発揮)</p> <p>□住民活動組織による公的サービス外での資源の拡大</p> <p>□公的制度対象外の支援サービスの実施による住民ニーズ解決の実績の積み上げ</p>	<p>□社協のネットワークを最大限に活かした情報収集および住民との情報共有により、住民ニーズの把握・分析</p> <p>□住民ニーズに沿った形での収益事業の実施・開発による事業基盤の確立</p> <p>□年代やエリア、興味分野などターゲットを絞ったPRによる新たな賛同者(担い手)の確保</p>
脅威	A	<p>◆募金活動団体の多様化により、集めにくい。/◆行財政改革による公的財源の縮減。/◆競争相手が増えている。</p> <p>□さらなるネットワークを強化することにより、福祉活動者が増え、社協に対する理解が深まる。(誰もが気軽に地域福祉活動に参加できる環境をつくっていく。)</p>	<p>□社協活動をもっとPRしないと、市民の協力が得られなくなる。</p>	
	B	<p>◆他の事業所の参入。/◆経済不況による減収。/◆地域コミュニティの低下。</p> <p>□住民などとの連携を深め、地域福祉活動の中で、取り込んでいける。</p>	<p>□社協独自のネットワーク機能を活用し、体質改善しなければ、弱体化が免れない。</p>	
	C	<p>◆民間事業者の介入により、地域福祉活動が社協特有のものでなくなった。/◆住民の福祉に対する意識の温度差があり、無関心な住民も多い。/◆高齢化に伴うサービス希望者の増加に対して、担い手や福祉資源が不足。/◆ニーズの多様化による困難事例の増加。</p> <p>□要支援者の生活全般を支援していくためあらゆる資源(専門機関、インフォーマル資源)をコーディネート</p> <p>□日常の支え合いを基盤とした緊急時(災害)にも対応しうる体制づくり</p> <p>□地域住民(ボランティア)による柔軟な見守り体制の定着化</p> <p>※ コミュニティソーシャルワーク機能としての社協の専門性を追求</p>	<p>□他社会福祉法人や行政、NPO法人等との協議や整理による住み分け、協働</p> <p>□必要に応じて撤退(転向)</p> <p>□地域全体の福祉力の底上げを図るための福祉教育の強化と自治組織化の推進</p> <p>□ボランティアや住民組織などの人材育成と、コーディネート分野での専門性の発揮</p>	

3. SWOT 分析の結果を鳥瞰してわかったこと

第1回分科会のSWOT分析(結果)では、社協の「弱み」以外の事からで抽象的なものが多く、環境変化の洗い出しもその裏づけが乏しいことが確認されました。

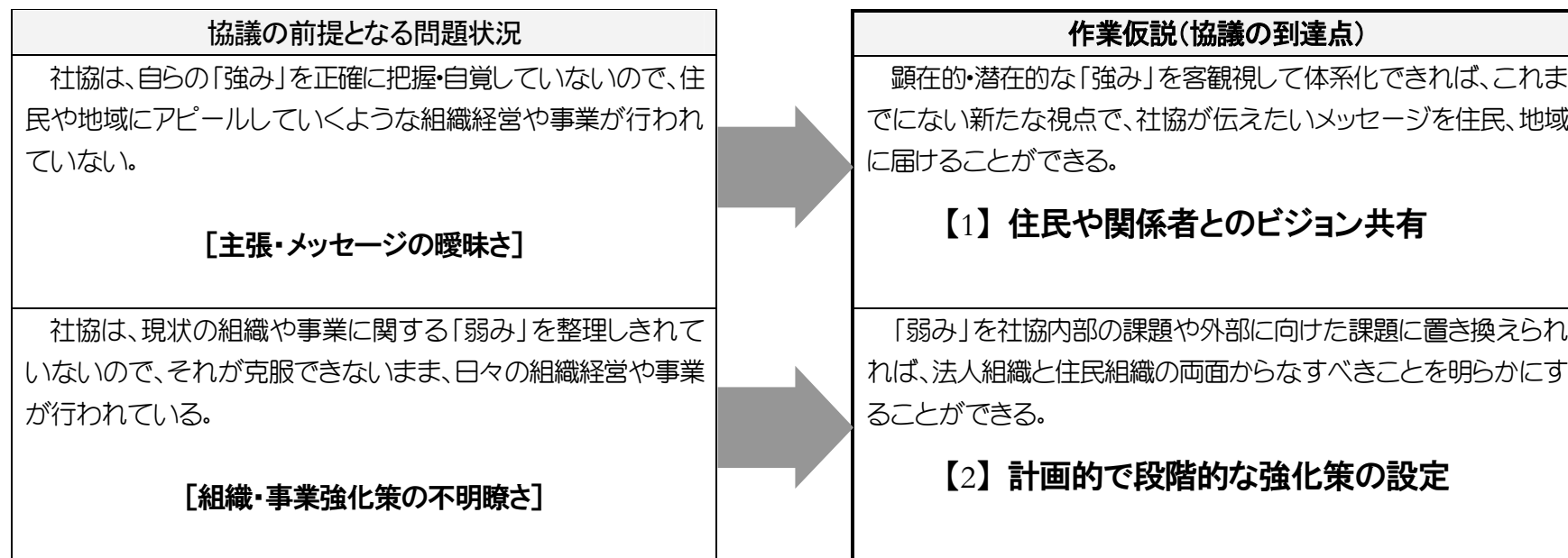
【機会】	…	<input type="checkbox"/> 社会的な気運、関心、理解やニーズを踏まえたものになっているか。 <input type="checkbox"/> 機会(チャンス)を実感できる具体性があるか。
【脅威】	…	<input type="checkbox"/> 脅威を実感できる具体性があるか。
【強み】	…	<input type="checkbox"/> 観念的なものが多く、強みを実感できる具体性があるか。 <input type="checkbox"/> 強みを裏づける証拠(根拠)が揃っているか。
【弱み】	…	<input type="checkbox"/> 取り上げたもの以外に、弱みは本当はないのか。
【戦略課題】	…	<input type="checkbox"/> 外部の社会環境の変化に社協内部の環境変化を対応させた戦略になっているか。

また、こうした議論をすすめる前提として、社協(分科会メンバー)間で、「地域福祉や社協のイメージを共有しておく必要があった」ため、改めて、地域福祉の実践で社協が駆使すべきスキルを以下のとおり確認しました。

【整理する】系のスキル	【つくる】系のスキル
① 調査／ひろう、聴く(聴きとる)、気づく、つながる、探す、感じる (感じ取る)、掘り起こす、リーチアウト、寄り添う、断らない	④ 組織化／つくる、つなぐ、創る、育てる、積み上げる、リーチアウト、寄り添う、支える
② 診断／すてる、見つめる、考える、記録する、立ち止まる、疑う、認める	⑤ 運営管理・マネジメント／まわす、導く、つなげる、残す、貯める、稼ぐ、立ち止まる、信じる、まずは応える、タライ回さない
③ 計画／ならべる、見直す、伝える、積み上げる	⑥ ソーシャルアクション／ほえる、創る、壊す、知らせる、伝える、叫ぶ

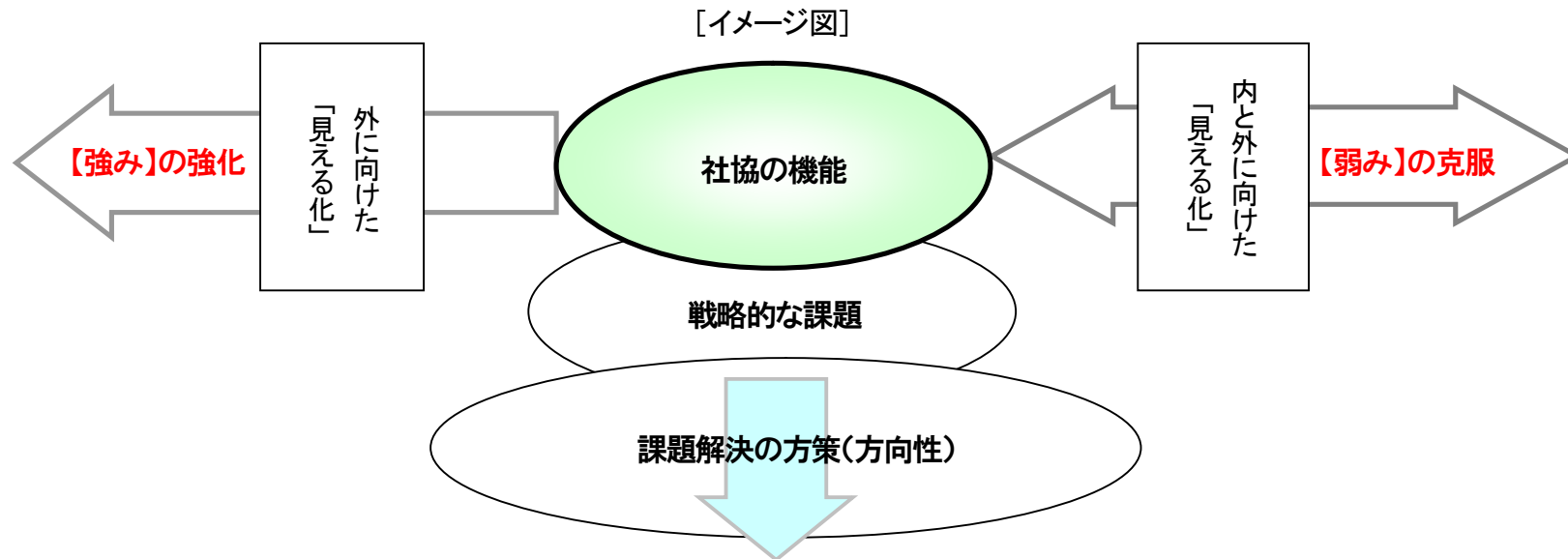
Chapter 3 社協の「見える化」に向けた議論の到達点

第1回分科会のSWOT分析、第2回分科会での協議を踏まえ、社協の「見える化」に向けた議論の到達点を「作業仮説」に置き換えて、今後の作業（協議）の手順とともに、以下のとおり整理しました。



議論を積み上げていく作業(協議)の手順

- ① SWOT 分析により、外部環境要因(機会・脅威)に対応させる内部環境要因(強み・弱み)を想定しながら、戦略的(4つの窓ごと)な課題(案)を描く。(※第1回分科会で終了済)
- ② 分析結果で出た「強み」に注目して、その裏づけとなる実際の事例や出来事を重ね合わせる(強みの再検証)。
 - (ア) 社協目線での検証
 - (イ) 住民・関係者目線での検証(推察)
- ③ 裏づけのある強みは、さらに強化していくための戦略課題を設定する。
- ④ 強みではなく、弱みになったものは、その状況と要因を明らかにし、新たな戦略的課題を設定する。
- ⑤ ③④の戦略課題を解決していく方策や評価のための基準(指標)を構想する。



Chapter 4 社協の「強み(弱み)」の再検証

第1回分科会で整理したSWOT分析(マトリクス表)で、特に「社協の強み」として選定されていた事から(以下の①～⑪)について、強みを裏づける具体的なインシデント[出来事]を集約して検証を行いました。

第1回分科会
(SWOT分析)で
集約された【強み】

- ① 人とのつながりがある。／② 多様な人や組織とのネットワークをもっている。／
③ 信頼性が高い。／④ 組織の専門性が高い。／⑤ 専門性の高い職員が多い。／⑥ 公共性がある。／
⑦ 柔軟性がある。／⑧ 住民活動を組織化してきた実績をもっている。／
⑨ さまざまな分野のボランティアを把握している。／⑩ ニーズ解決の実績がある。／⑪ 情報が入りやすい。

▼ 上記(①～⑪)の「強み」については、関連性や相関性の視点で大きく[4つのカテゴリー]に分類(次頁)するとともに、「強み」や「弱み」を構成している要素(ポイント)についても整理しました。

▼ その結果、「強み」に位置づけた事からでも、十分な裏づけが確認できなかったり、強みよりむしろ「弱み」の要素を多く含んだ事からが存在することがわかりました。

◇ 当初設定した【強み】と強み・弱みを構成する要素(ポイント)の整理 ◇

当初設定した【強み】	【強み】を構成している要素(ポイント)	強みではなく、【弱み】を構成している要素(ポイント)
<p>I</p> <p>① 人のつながり</p> <p>② 人・組織のネットワーク</p> <p>⑧ 住民活動の組織化</p> <p>⑨ ボランティアのつながり</p> <p>⑩ 情報の入りやすさ</p>	<p><input type="checkbox"/> 地域のつながりの希薄化は、逆に社協の存在意義を高める状況を作り出している。</p> <p><input type="checkbox"/> 社協は実践のテリトリー(区域)が決まっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エリアで地域福祉を推進する唯一の組織 <p><input type="checkbox"/> 地縁組織との関係性が強い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会や既存の地域組織、関係団体 ・ 特定の人や関係者 <p><input type="checkbox"/> 全国を網羅する社協のネットワークがある。</p> <p><input type="checkbox"/> 人や活動等をつなげるための仕組みを持っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社協と地域を媒介する地区社協や福祉委員 ・ 地域に活動推進を担う人材を育ててきた <p><input type="checkbox"/> 実践や事業展開の過程が、多様で複合的である。</p> <p><input type="checkbox"/> 県内社協には約 2,000 人の職員がおり、日常的に地域活動に関わっている職員も多い。</p>	<p>■ 社協固有の強みが見えてこない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同業他社との比較がしにくい <p>■ 異業種・他(多)分野のテーマ型組織などとの関係づくりが下手である。</p> <p>■ 地縁組織を活かす機能を発揮できていない。</p> <p>■ つながりの活かし方(手法・ノウハウ)が不明瞭。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ つながる人の見つけ方、巻き込み方など ・ 役割や動きが形骸化＝関係があるような錯覚 <p>■ 実践や事業の効果・成果を見せてきていない。</p> <p>■ 本当に「つながっているのか」を実証していない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実証性や科学性が乏しい ・ 住民のつながり実感が弱い、共感性が乏しい <p>■ 住民参加の姿づくりやそのための仕組みが弱い。</p> <p>■ 扱う情報の質や出し方・扱い方が画一的である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民や地域のリアクションの受け止め方も下手 ・ 使える(効果的な)情報を拾えているのかも疑問

当初設定した【強み】	【強み】を構成している要素(ポイント)	強みではなく、【弱み】を構成している要素(ポイント)
II ③ 信頼性 ⑥ 公共性 ⑪ 情報の入りやすさ	<input type="checkbox"/> 法律にその存在が規定されている。 <input type="checkbox"/> 使命や組織の理念上は、他の法人と差別化できる。 <input type="checkbox"/> 住民会員(会費)制度を採っている。 ・ 住民参加の仕組みをもっている <input type="checkbox"/> 住民としては、「社協は何となく安心」のイメージ。 ・ 「社協がすることだから」と動いてくれる人もいる <input type="checkbox"/> 全国を網羅する社協のネットワークがある。 <input type="checkbox"/> 関係者や団体には一定のネームバリューがある。 ・ 「つないでくれる」、「橋渡しをしてくれる」 <input type="checkbox"/> 情報を発信する媒体やルート(関係)がある。	<input checked="" type="checkbox"/> NPO 等のように簡単には看板を降ろせない。 <input checked="" type="checkbox"/> 人も財源も行政依存型になっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 運動体としての機能が強化しきれていない。 <input checked="" type="checkbox"/> 住民の信頼感を明らかにする術を持っていない。 ・ 中間支援を担う人材の役割や動きが形骸化 ・ 外からの評価を受けていない(拾っていない) <input checked="" type="checkbox"/> 行政との対等な関係や強みは発揮できていない。 ・ 足元を見られた、安上がりな事業の押し付け ・ 公共性を逆手に取った事業の押し付け
III <カテゴリーⅢ> ④ 組織の専門性 ⑤ 職員の専門性	<input type="checkbox"/> 有資格者が多い。 ・ 有資格者を活かしていくための素地はもっている <input type="checkbox"/> 個別支援に関わる職員のノウハウはある。 <input type="checkbox"/> 地域の中では豊富な人材を抱える大企業である。 <input type="checkbox"/> 専門性に対する何となくの期待値がある。 ・ 「他に比べると社協は何かしてくれそう…」 <input type="checkbox"/> 一人が対応する業務の領域や範囲が広い。 ・ ジェネラリストが多い <input type="checkbox"/> 地域で活動を担う人材を育てている。 <input type="checkbox"/> 地域でつながる・つなぐ「チャンネル」を持っている。	<input checked="" type="checkbox"/> 業務を超えた、社協全体の専門性発揮が不十分。 ・ 社協内部でのマネジメント機能の基盤が弱い ・ 担当業務を消化する域を出ていない <input checked="" type="checkbox"/> 「地域福祉の専門性」を裏づける材料が乏しい。 ・ 必要な資格やスキルが不明瞭 ・ 何をしている組織かが理解・認知されていない <input checked="" type="checkbox"/> 社協固有の専門性そのものが見えていない。 ・ 住民に社協が何をしているかを伝えていない ・ 実践スキルやノウハウが積み上がっていない ・ 外部から評価されたことがない ・ ジェネラリストとスペシャリストの育成スタンスが曖昧 <input checked="" type="checkbox"/> 地域の活動を活かしきれていない。 ・ 住民や地域との価値やビジョンの共有が弱い

当初設定した【強み】	【強み】を構成している要素(ポイント)	強みではなく、【弱み】を構成している要素(ポイント)
IV ⑦ 柔軟性 ⑩ ニーズ解決の実績 ③ 信頼性	<input type="checkbox"/> さまざまな局面で問題解決を行ってきた。 ・ サービスを事業化してきた歴史・実績はある <input type="checkbox"/> 規格外(横出し・上乘せ)の支援策を創り出せる。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 社協(職員)自体に「自信」や「自慢のウリ」がない。 ■ 問題解決の実績を実証する材料が乏しい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 問題解決の即応性(スピード)はどうか ■ ニーズ(問題の本質)をどこまで掘んでいるかが疑問である。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ニーズとは何かが社協内で整理しきれていない ・ スペシャルサービスの限界と限界を超えた対応 ・ 他では拾えない、見つけられないニーズはあるか ・ 埋もれているニーズは掘んでいるか ■ 行政との関係や制度の中での「柔軟」に留まっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な事業でも財源の裏づけをつくれぬ ・ 補助が切れたら事業も終わる傾向にある

▼ 以上を踏まえると、社協の「見える化」に向けた戦略的課題の設定には、次の[3つの基軸]が必要になってくることが確認されました。

- 〔見える化の基軸①〕 つながる・つなげる実践をどのように展開していくのか。
- 〔見える化の基軸②〕 組織と職員の専門性をどのように培っていくのか。
- 〔見える化の基軸③〕 公益(公共)性と民間性をどのように両立させていくのか。

Chapter 5 社協の「見える化」をすすめる戦略課題の設定(再編)

1. 戦略課題の原案づくり

Chapter 4 までの積み重ねを踏まえ、社協の「見える化」に向けた戦略課題(原案)を以下のとおり設定しました。

「見える化」戦略の基軸		「強み」の要素から設定する戦略課題(原案)	「弱み」の要素から設定する戦略課題(原案)
I	つながる・つなげる 実践をどのように 展開していくのか？	① 他の組織と差別化できる社協の存在意義(価値)の 明示 ② 地縁型組織とのネットワークの強化	③ 社協の存在意義(価値)の標準化と共有 ④ テーマ型組織とのネットワークの拡大 ⑤ 社協実践や地域福祉実践による成果の枠組みづくり
II	組織と職員の専門性を どのように 培っていくのか？	⑥ 社協組織として発揮すべき専門機能の強化 ⑦ 社協職員が駆使すべき専門スキルの強化	⑧ 組織の経営力を高めるノウハウの修得 ⑨ 職員の実践力を高めるスキルの標準化
III	公益・公共性と民間性を どのように 両立させていくのか？	⑩ 社協の公益(公共)性と民間性を担保する要素の抽出 ⑪ 個別の生活問題解決に関する実績やノウハウの蓄積 ⑫ 地域資源を巻き込んだ協働・協同実践モデルの確立	⑬ 社協(組織・実践)に対する住民評価の枠組みづくり ⑭ 地域福祉がすすんだ姿(成果)を測る枠組みづくり ⑮ エリアや分野を越えた生活問題解決の仕組みづくり

2. 戦略課題(原案)を解決につなげる取組み方策(イメージ)づくり

分科会では、前記の戦略課題(原案)が実効性をもったものかを確認するため、各社協(分科会メンバー)から、これらの課題を解決する方策の具体的な提案を集約(下表)しました。

「見える化」の基軸		「見える化」に向けた戦略課題の原案		戦略課題を解決する方策イメージ [メンバー提案]	
I	つながる・つなげる実践をどのように展開するのか	強み	① 他の組織と差別化できる社協の存在意義(価値)の明示	<input type="checkbox"/>	すべての社協で発展強化計画の策定
			② 地縁型組織とのネットワークの強化	<input type="checkbox"/>	小地域福祉活動計画の策定
		弱み	③ 社協の存在意義(価値)の標準化と共有	<input type="checkbox"/>	自治会や団体との連携事業創設
			④ テーマ型組織とのネットワークの拡大	<input type="checkbox"/>	個別支援・地域支援の実践成果・効果の検証 <input type="checkbox"/> 県社協に「社協のあり方研究会」設置
			⑤ 社協実践や地域福祉実践による成果の枠組みづくり	<input type="checkbox"/>	ネットワークの枠組みの具体化 <input type="checkbox"/> 公民館等を拠点にした協働事業の企画 <input type="checkbox"/> 組織相互の共通の目的探し(共有)
II	組織と職員の専門性をどのように培っていくのか	強み	⑥ 社協組織として発揮すべき専門機能の強化	<input type="checkbox"/>	成果・効果の蓄積方法(記録化)の共同開発 <input type="checkbox"/> 成果・効果の活かし方の共同開発 <input type="checkbox"/> 住民意識調査等の継続実施と経年変化検証
			⑦ 社協職員が駆使すべき専門スキルの強化	<input type="checkbox"/>	他が取り組まない課題解決サービス開発 <input type="checkbox"/> 発展強化(経営)計画の中で機能明示 <input type="checkbox"/> 他では見せれない成果の検証と明示
		弱み	⑧ 組織の経営力を高めるノウハウの修得	<input type="checkbox"/>	実践による成果・効果の検証 <input type="checkbox"/> 研修の体系化(既存体系の更なる強化)
			⑨ 職員の実践力を高めるスキルの標準化	<input type="checkbox"/>	社協内に経営(強化)部門の設置 <input type="checkbox"/> 民間企業等からのノウハウ修得の場づくり <input type="checkbox"/> 経営ビジョン(中期・長期)の明確化
				<input type="checkbox"/>	インフラリスト、ジェネラリストの計画的体系的な育成 <input type="checkbox"/> すべての職員のスキル修得の場づくり

「見える化」の基軸		「見える化」に向けた戦略課題(原案)	戦略課題を解決する方策イメージ(メンバー提案)
III 公益(公共)性と民間性をどのように両立させていくのか	強み	⑩ 社協の公益(公共)性と民間性を担保する要素の抽出	<input type="checkbox"/> 既存事業の見直しと仕分け <input type="checkbox"/> 公益性と民間性を検証する場づくり
		⑪ 個別の生活問題の解決に関する実績やノウハウ蓄積	<input type="checkbox"/> 個別支援・地域支援の実践成果・効果の検証(再掲) <input type="checkbox"/> 他が取り組まない課題解決サービス開発(再掲) <input type="checkbox"/> 成果・効果の蓄積方法(記録化)の共同開発(再掲) <input type="checkbox"/> 成果・効果の活かし方の共同開発(再掲)
	弱み	⑫ 地域資源を巻き込んだ協働・協同実践モデルの確立	<input type="checkbox"/> 地域での推進基礎組織づくり <input type="checkbox"/> 協働・協同実践の事例検証
		⑬ 社協(組織・事業)に対する住民評価の枠組みづくり	<input type="checkbox"/> 市町域で社協の内部評価の仕組みづくり <input type="checkbox"/> 社協の外部評価の仕組みづくり <ul style="list-style-type: none"> ・住民や関係者の声を拾う場 ・住民等を対象にした調査(経年分析) ・住民や関係者による評価、効果測定
		⑭ 地域福祉が進んだ姿(成果)を測る枠組みづくり	<input type="checkbox"/> 市町域で社協の内部評価の仕組みづくり(再掲) <input type="checkbox"/> 社協の外部評価の仕組みづくり(再掲) <ul style="list-style-type: none"> ・住民や関係者の声を拾う場 ・住民等を対象にした調査(経年分析) ・住民や関係者による評価、効果測定 <input type="checkbox"/> 成果・効果の蓄積方法(記録化)の共同開発(再掲)
		⑮ エリアや分野を越えた生活問題解決の仕組みづくり	<input type="checkbox"/> 異業種、異業態を巻き込む仕組みづくり <ul style="list-style-type: none"> ・他団体・組織と協同で解決策の立案 ・コミュニティファンドの創設 ・業種、業態を越えた事例(成果)の検討 ・小地域福祉活動計画の策定

3. 社協の「見える化」に向けた戦略課題の設定

(1) 戦略課題を設定するうえでのポイント

- 地域福祉活動や社協の組織強化を図る計画づくりは、他の主体には真似できない(差別化)という点で重要な取組みである。
- 社協が計画づくりをすすめる過程では、社協内部での目標管理や日常業務の進行管理、目標を共有・評価していく仕組み(PDCA サイクル)やマネジメントの機能が不可欠になる。
- 財源やコストも含め、経営資源などの基盤をどうやって強化していくかも重要な課題になる。
- これらを実現するためには、住民や地域との間で、地域福祉についての理念やビジョンの共有が不可欠となる。

(2) 分科会として採択した【社協の「見える化」に向けた戦略課題】

これまでの議論を踏まえ、分科会として採択する戦略課題を次の4点に絞り込むとともに、それぞれの課題解決に必要な取組み方策についても体系的に提案することにしました。(3頁)

I

住民と“地域の福祉活動”の価値や目標を分かち合う場をつくる。

III

住民と協働できる“福祉活動ワーカー”を計画的に育てる。

II

“地域の福祉活動”の成果を検証できる仕組みをつくる。

IV

社協の組織・事業に関する目標設定と進行管理の仕組みをつくる。

Chapter 6 分科会協議を通じて見えたこと — メンバーの振り返りコメント —

見える化についてスワット分析をしていた当初は、課題や分析についても具体性に欠き漠然としていました。また、私自身幹事を任せられたものの、ほとんど貢献できず、他の幹事、事務局お陰で最終回まで進めたと思っています。

しかし、地域に目を向けたり、いかに見える化を意識していくかが、回を重ねるにつれて、社協内部や経営についても目を向け、そしていかに住民を育てて、一緒に計画作成や課題を共有し、解決に向けて取り組んでいくかを整理することができたと思います。特に、住民との協同、分析力、記録の重要性、さらに、成果をどう示していくかの大切さを痛感しました。

戦略課題と取り組み方策を整理しただけに過ぎず、達成に向けては課題も多いですが、今後は、課題を住民と共有し、巻き込み、今回の分科会での取り組みを活かすために、社協内外での見える・見せる化に貢献していきたいと思っています。参加させていただきましてありがとうございました。

[幹事] 永平寺町社協 小林政広

この分科会の目的は、社協で取り組むべき「見える化」に向けた戦略をつくるということでした。第1回目に SWOT 分析を行ったときは、出てきた戦略が抽象的で、どうなることかとも思いましたが、県社協に上手く誘導してもらい、それらしい形にまとまりました。あとは、どう実効性をもたせるかです。

分科会を始めるにあたって「見える化」に向けた内外の課題についてアンケートを行いました。多くの社協で、合併後組織が大きくなり、事務職と現場の職員、各部署間の情報の共有化や意思疎通が欠如している現状が窺えました。

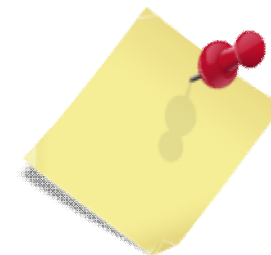
社協の「見える化」を図るには、まず社協内部での情報の共有化、課題の「見える化」を行い、職員同士の意思疎通を図っていくことが必要でしょう。市町村合併や行財政改革などにより、市町社協の経営環境はますます厳しくなっている。その一方で、社協固有の存在意義も薄れつつあるように思います。民間団体として目指すべき方向性を明確にし、職員が同じ方向を向いた事業展開が図れるようにしたいものです。

[座長] 福井市社協 竹内倫自

「見える化」についての協議での成果は、社会福祉協議会が組織として機能していないということが「見えた」ことです。全体での組織理念や目標/進行管理ができなければ、住民や行政その他に対して納得させられる成果を明示できるはずもなく、根本的なことですがこれが大切だと改めて感じました。

満足のいく成果品とは言えないまでも、この一年の協議で明らかになった戦略課題をクリアしていくことで、はじめてベースラインに立つのかなと思います。力及ばず皆さんにはご迷惑をおかけしましたが、一年間幹事として皆さんに支えていただきましたこととお礼申し上げます。

[幹事] 美浜町社協 家光 薫



何事も成果が問われる今日、“地域福祉が進んだ姿”をどのように見せていくか、社協としてその成果をどのようにアピールしていくかというテーマについてじっくり考えるよい機会となりました。いずれの戦略課題にしても、ただ単に「見える化」の方法、手段だけを追い求めても達成できるものではありませんので、必要以上に形にとらわれないよう、広い視野で具体的な方策を立てていければと考えています。

敦賀市社協 岡本政憲



「社協って何するところ？」そんな住民の問いと目を気にしながら活動に従事する日々、“見える化”に向けた課題と方策を探る当分科会は、私にとって今一度、原点に立ち返り社協の果たすべき役割をじっくり考える良い機会となりました。職員数等組織規模の拡大化が、必ずしも“見える化”に直結しているとは言えず、やはり、個々のケースを丁寧に関係者や住民との連携・協働で解決に向けた取り組みを積み重ねていくことこそが、と改めて認識を強く持ちました。そのために、各々の職員の専門性を発揮できる環境づくりを行い、本会のモットー「あなたの社協に」のもと、職員一丸となって住民にアピールしていこうと思っています。

最後になりましたが、とりまとめいただいた座長・幹事さん、県社協にお礼申し上げます。

小浜市社協 田中恒徳

日々業務を行っている自分を含む社協職員自身が『社協』を見えていない・見ていないということは感じていたが、自分が見えていないものを住民にどう見せていくのが、今回の分科会で考えるよい機会となった。

協議の中で社協が駆使すべきスキルを挙げていったときに、次々と動詞が出てくるにもかかわらず、その中のどれだけを使えているのかを考えると自信がなく話にならない。

今後1年間を通して検討してきたことを実践し、3年後5年後につなげていくのに自分はどういう役割を担っていけばいいのか不安もあり見当もつかないが、分科会に参加した者として積極的に関わり、社協職員みんなが戦力となって実践していけるよう前向きにがんばっていきたい。

鯖江市社協 宮田伸子

これまでプライバシーに関わるとして明らかにしてこなかった活動の中に、余程社協らしい誇れるものがある。

公表できる形に変換することが必要。それ以前に、もっと地域に出て、他に誇れる活動が必要と痛感。

あわら市社協 平田 豪

率直に、1年間とてもつらい会議で、自分自身の勉強不足をまざまざと見せ付けられました。

ただ、日頃感じているのは、地区社協などの組織がしっかりしてきたがゆえに、市社協が地域に出て行くことが減ってきたのかなと思っています。5回目の会議のときにスーパーバイザーの助言にもありました「窓口などに来た住民の声を記録する。日常の声を記録し事業に反映する。それがまず第1段階では。」これも手段の1つとして捉えて、永松次長のおっしゃった「もっと、もっと地域の中に入っていく」やはり、社協は原点に戻る時期にきているのかなと思いました。

長いようで短かった分科会でしたが、幹事様・事務局様大変お疲れ様でした。

勝山市社協 長谷川敦子

日ごろより多種多様な業務に携わっている方々と共に「社協組織・事業強化」について意見を交わすことができ、改めて社協の理念や現状を知る貴重な時間となりました。

どの職種においても成果を求められる時代です。社協の働きによって誰がどう幸せになったかということを他者に表現するために、どこよりも先に指標をつくらなければいけないという言葉が大変印象に残ったと同時に、重い課題をつきつけられた気がします。

今回出された方策について少しずつでも取り組んでいけるよう勉強していきたいと思います。ありがとうございました。

越前市社協 村下誠一

年間を通して、自分から進んで申し込んでおきながら、ほとんど参加することが出来ず、とても残念です。

社協がやらなければならない「地域福祉活動」の原点を再度確認することができ、出来あがった報告書を有効に活用していきたいと思います。地域住民(地区社協、福祉委員、区長会、関係団体等)とより協働できる考え方(会議)であったかと思いません。社協の使命である「地域福祉活動」を見える黒子になり、今後も取り組んでいきたいと思います。

大野市社協 田中邦弘

今回の研究会での作業を通じて「福井県に住んでいて本当によかった！県外からは引越してでもぜひ住みたい！」と思わせるような魅力的な福井県(広域・市町域)とするために、社協じゃないとできないことを、オール社協で県市町社協の特性を生かしながら取り組んでいけたらいいなと思いました。

住民のみなさんだけでなく社協内でも「事業の見える化」を図ることが、“ふくしで”まちづくりをすすめるために大切であることを学ばせてもらいました。

幹事さんはじめ委員のみなさま、裏方で動いてくれた事務局のみなさま本当にありがとうございました。

坂井市社協 山本俊郎

第1回社協組織・事業強化分科会に参加した当日、自己紹介や参加の動機づけで今の心境を、確か『真っ白』と答えたように分科会を重ねるに従って社協組織としての課題の多さに改めて気づかされた。社協の「強み」の要素が十分に活かされていないか、強みではなく実際は「弱み」だった等、確認し文字化していただくことで具体的な実践方策の共有となった。社協を取り巻く環境も変化し、地域福祉を推進する上で住民とどのように協働していくかが社協の存在意義を含めて、今後大きな課題となる。協議を通してたくさんの色が混ざっている状態であるが、3年後の標準方策や5年後の強化方策後には地域住民の『笑顔』で埋められるよう一歩ずつ取り組んでいきたい。

南越前町社協 浜野まゆみ



今回、社協の“見える化”ということで参加させてもらい、他社協の方々との話し合いの中で実際に見えているようで見えていない(見せていない)ことが分かり、すべきことが明確になった。

身近な地域の福祉課題を個々の相談から、ニーズと課題を読み取り、問題解決に向けて各関係機関と連携しながら、地域の人を巻き込んで計画・実行に移していきたい。

また、住民の福祉力をつけるためにはどうすべきか、今後の大きな課題として捉えていきたい。

越前町社協 小林恵子

見える化の協議を通じ、自社協が地域住民や関係者に、ほとんど見せられていない。伝えることができていないと実感した。

又、今回の協議のように自社協内においても、地域福祉、社協の立ち位置などについて、議論することの必要性を強く感じた。

この方策は、今後、自社協の見える化を進めていくためには、非常に重要な事柄であり、実施に向け自社協内で議論を重ね、将来ビジョンを描く中で住民と共に住民目線で歩んでいきたいと思う。

分科会の運営にあたり、幹事の皆さんに感謝申し上げます。

高浜町社協 田淵 誉

今年度の分科会は都合により第3回からの参加であったが、社協が抱える問題状況や社協が持っている強み・弱み等について協議することで自社協の課題等を再認識することができた。

今後は、分科会で方向性を決定した方策に取り組んでいかなければならないが、社協の【見える化】の必要性などについて自社協全体で共通認識をいかにして持つのが当面の課題と考える。

また、スーパーバイザーの方の話にもあったように、取り組み方策だけでなく、日頃から相談者や利用者の方々の話をしっかり受け止め、ニーズを把握し対応していくことも大切だと感じた。

おおい町社協 崎田勇一

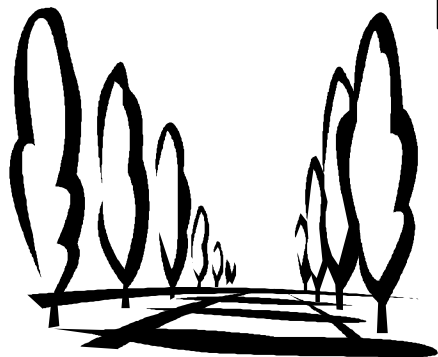


社協の事業内容を地域住民に知ってもらうことが、とても難しいということ、また、社協の「見える化」は、外部(地域)に対してだけでなく内部(職員)についても取り組んでいかなければならないことが分かりました。

社協について、どの部分が強みであり弱みであるかを、日頃見聞きすることから考えるクセをつけたいです。自分の業務以外の社協事業の現況について、情報を得られるようにしたいと思います。特に、地域福祉部門の職員と連携を密にできれば、と思います。

内容が高度であったため、ついていくのが大変でしたが、非常にためになりましたので、教えていただいた内容を日々の業務に活かせるようにしたいです。ありがとうございました。

若狭町社協 橋本貴文



Data 1 協議のあしあと

幹事会

- ①6月1日(月)／②8月3日(月)／③8月12日(水)
- ④9月10日(木)／⑤1月5日(火)／⑥1月18日(月)



第1回分科会

- 日時 6月30日(火) 10:30～16:10(福井県社会福祉センター)
- 内容 ①幹事(座長)紹介／②分科会運営方法の確認／③メンバーの自己紹介／④事前課題(社協内外の問題状況)を踏まえたグループワークによるSWOT分析



第2回分科会

- 日時 8月25日(火) 10:00～16:00(越前市健康福祉センター)
- 内容 ①前回の振返り／②「社協」「地域福祉」についての共通認識づくり／③前回 SWOT 分析結果の検証／④池田昌弘氏(全国コミュニティライフサポートセンター理事長)の実践報告と課題の投げかけ



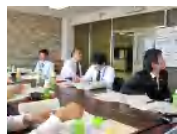
第5回分科会

- 日時 2月16日(火) 13:30～16:30(福井県社会福祉センター)
- 内容 ①前回の振返り、②社協「見える化」の戦略課題、取り組み方策(案)の提示／③戦略課題、取り組み方策、達成度評価指標の検討／④池田昌弘氏(全国コミュニティライフサポートセンター理事長)の総括(講評)



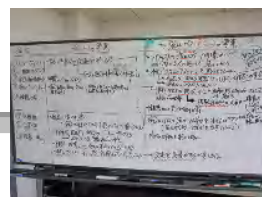
第3回分科会

- 日時 10月16日(金) 9:30～12:30、13:30～16:10(福井県社会福祉センター)
- 内容 ①前回の振返り／②分科会協議の方向性確認／③SWOT結果に基づく強み・弱みの再検証



第4回分科会

- 日時 12月15日(火) 10:30～15:45(福井県社会福祉センター)
- 内容 ①前回の振返り／②これまでの議論を踏まえた「社協見える化」の戦略課題(案)の提示／③戦略課題づくりに向けた確認事項の整理



Data 2

社協による地域福祉推進研究会 開催要綱

1. 目的

社協を取り巻く環境の変化が激しく、厳しさを増す状況にあつて、広範な地域を網羅するネットワークを有した組織として、その特性や強みを活かした組織経営や地域福祉実践が期待されています。

その一方で、地方分権や市町村合併による自治体区域の拡大、財政基盤の弱まりなどを背景に事業活動が多様化し、一律に社協を捉えていくこと自体が難しくなっているという現実もあります。

しかし、制度の狭間や制度の外にある生活ニーズ(問題)の解決に向けて、地域のさまざまな資源、知恵、アイデアを紡いで、住民が主体的に福祉活動や地域づくりに参加できるよう支援することは、すべての社協に課せられた使命であり、組織存立の意義でもあります。

そこで、昨年度に引き続き、「社協による地域福祉推進研究会」を開催し、時宜の課題に基づく研究協議を積み重ねながら、県内社協の組織や事業の一層の強化を図っていきます。

2. 実施期間 平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月

3. 実施内容

(1) 分科会の設置運営

研究会活動と協議の円滑な進行に資するため、2つの分科会と合同分科会を開催し、分科会ごとの研究課題を設定します。

今年度の研究課題と課題の設定理由は、(別紙 1)のとおりです。

① 設置分科会

- (ア) 小地域福祉活動推進分科会
- (イ) 社協組織・事業強化分科会
- (ウ) 合同分科会(地域の福祉力づくり推進強化モデル事業「実践報告会」)

② 分科会の運営方法

(ア) 幹事社協および座長の配置

分科会ごとに、毎回の会議運営や協議進行で中心的な役割を担う「幹事」若干名を置き、うち1名を各分科会の「座長」とします。
なお、分科会の運営に資するため、分科会ごとの幹事会は必要な都度、随時開催します。

(イ) 開催回数

各分科会とも、おおむね年4回の協議機会を設けます。なお、合同分科会については、年1回の開催を基本とします。

(ウ) メンバー

分科会は、すべての市町社協からの参加メンバーで構成することを原則とし、各市町社協は、分科会につき職員1名(延べ2名)をメンバーとして選任します。

ただし、市町社協の意向により、いずれかの分科会、またはいずれの分科会にも参加しない場合は、事前にその旨を報告することとします。

また、分科会メンバー以外の職員については、必要に応じて、毎回の分科会へのオブザーバー参加ができるものとします。

(エ) 研究成果の集約

分科会ごとの研究(協議)成果は、平成21年度末に報告書として取りまとめます。

(2) 「地域の福祉力づくり推進強化モデル事業」による実践成果の共有

地域の福祉力(住民の主体的な参加による福祉活動の広がり)を意図した実践に対して助成金を交付するとともに、年間を通じた実践の成果を合同分科会の場で総括(検証)します。

- (ア) 助成対象 市町社協
- (イ) 助成金額 総額500千円以内
- (ウ) 対象事業 地域の福祉力を高め、成果の明示を意図した事業
- (エ) その他 事業に係る実施要項は(別紙2)のとおり

4. 運営に係る庶務

研究会の運営に関わる事務等は、福井県社協(福祉のまちづくり推進課)で行います。

〒910-8516 福井市光陽2-3-22 福井県社会福祉協議会 福祉のまちづくり推進課 (担当:杉本、高田)

TEL 0776-24-4987 FAX 0776-24-0041 E-mail chiiki@f-shakyo.or.jp

社協組織・事業強化分科会メンバー

(行政順・敬称略)

No	社協名	メンバー氏名	職名	備考
1	福井市社会福祉協議会	竹内 倫 自	総務課長補佐	幹事(座長)
2	敦賀市社会福祉協議会	岡本 政 憲	地域福祉事業グループ統括	
3	小浜市社会福祉協議会	田中 恒 徳	事務局次長	
4	大野市社会福祉協議会	田中 邦 弘	事務局次長補佐	
5	勝山市社会福祉協議会	長谷川 敦 子	総務主事	
6	鯖江市社会福祉協議会	宮田 伸 子	主事	
7	おわら市社会福祉協議会	平田 豪	係長	
8	越前市社会福祉協議会	村下 誠 一	主事	
9	坂井市社会福祉協議会	山本 俊 郎	総務課長補佐	
10	永平寺町社会福祉協議会	小林 政 広	主幹	幹事
11	南越前町社会福祉協議会	浜野 まゆみ	福祉活動専門員	
12	越前町社会福祉協議会	小林 恵 子		
13	美浜町社会福祉協議会	家光 薫	リーダー	幹事
14	高浜町社会福祉協議会	田淵 誉	総務・管理	
15	おおい町社会福祉協議会	崎田 勇 一	地域福祉担当	
16	若狭町社会福祉協議会	橋本 貴 文	法人運営事業担当	
【スーパーバイザー】				
17	全国コミュニティライフサポートセンター	池田 昌 弘	理事長	
【事務局】				
18	福井県社会福祉協議会	梅澤 順 一	事務局長	
19		永松 真	事務局次長(地域福祉担当)	
20		藤田 康彦	福祉のまちづくり推進課長	
21		杉本 吉弘	〃 総括主任	(分科会担当)
22		高田 勝之	〃 主査	